



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●慶良間でもふえるのかな？

ーミズクラゲ その2ー

3月になり、12月ごろと比べるとずいぶん日が長くなったと感じますが、まだまだ北風は冷たいですね。海水温も一年で一番低い時期です。この季節になると港の中などに‘青いもの’が浮いていないか気になります。何かというと、カツオノカンムリやギンカクラゲです。以前アムスルだより No. 60 で、海面を漂いながら暮らしているクラゲを出すクラゲとして紹介しました。これらが、潮流や風の影響でこの時期に慶良間に吹き寄せられることが多いのです。ときどき気にして港などをのぞいていますが、残念ながら今年はまだ見かけません。クラゲと言えば、ついこの間ミズクラゲの話を書きました（アムスルだより No. 124）。今日は、その後日談を書くことにしましょう。

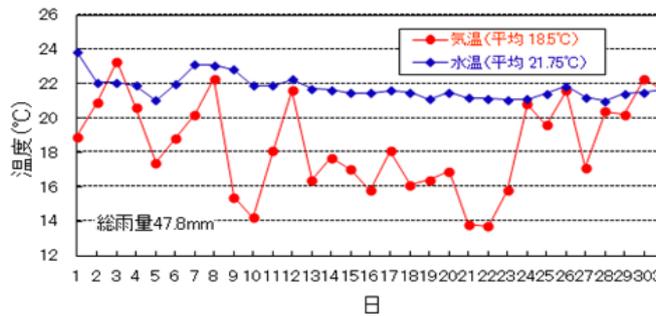
あの時に書いたのは、ミズクラゲは一生の中で、海を漂いながらくらす‘クラゲ’と海底にくっついてくらす‘ポリプ’という2つの姿をもっているという

ことと、そのポリプはふえやすいので内地ではこのクラゲを良く見かけるのですが、慶良間ではエサが少なくてポリプが十分に育たないためにあまり見かけないのかもしれないということでした。

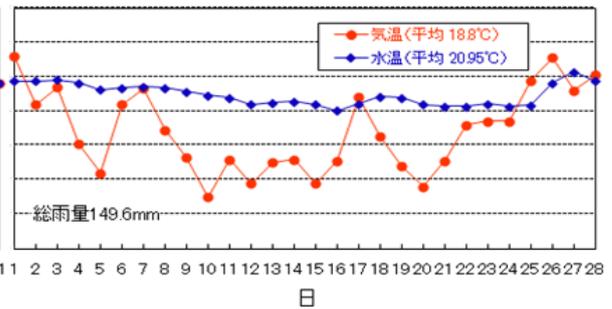
前回ミズクラゲを見たのは、去年の9月のことでした。前のアムスルだよりには書きませんでした。この時もう一つ大切な発見があったのです。実は、この時のクラゲはプラヌラ幼生をもっていたのです。ミズクラゲの生殖巣は四つ葉のクローバーのように見える胃袋の周囲にあり、ミドリイシなどのサンゴと違ってオスとメスは別々の個体で、オスクラゲは精子を、メスクラゲは卵を作ります。そして、卵は、メスの体の中でオスが海中に出した精子と受精して受精卵になり、外に出されることなく保育のうという袋の中でプラヌラ幼生に育ちます。保育のうは、クラゲの傘の下のひらひらした口腕こうわんにあり、ここで育ったプラヌラ幼生が海の外に出ていきます。9月にクラゲを見たとき、口腕が紫色をしたメスクラゲを見つけました。「これはプラヌラをもってる」とピンとききました。そのメスクラゲをそっとビニール袋でつかまえて、研究所に持って帰りました。かわいそうですが、口腕を1本ハサミで切り取って顕微鏡で見ると、やっぱりそうです。たくさんたくさんのプラヌラ幼生がいました（写真1と2）。幼生の大きさは、0.2～

定点観測

2014年1月



2014年2月



0.3mmととても小さいですが、おびただしい数です。中にはすでに泳ぎ始めているものもいて、見ていると次から次に口腕から泳ぎ出していきます (写真3)。こうして思いがけずミズクラゲのプラナラ幼生が手に入りました。



写真1 口腕の保育のう

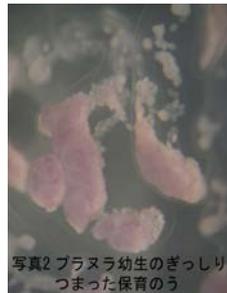


写真2 プラナラ幼生のぎっしり つまった保育のう

前のアムスルだよりに書いたとおり、このプラナラ幼生は海底にくっついてポリプになります。せっくなので、ポリプにしてみようと思いました。海からひろってきた石やサンゴのかけら、貝殻、それに研究所の水槽にしばらく置いておいて表面の汚れたガラス板など、いろいろなものを幼生といっしょの容器に入れてみました。どういふわけかなかなかついてくれなかったのですが、10日ほど後、幼生がガラス板についてポリプになっているのを見つけました。ポリプの触手は、ついて間もないのでまだ4本や8本でした。これから成長して、16本まで増えます。そして、さかんにエサを食べて無性生殖^{むせいせいしょく}で数を増やしていきましょうと思います。

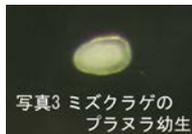


写真3 ミズクラゲのプラナラ幼生

今回はじめて成熟したミズクラゲを見つけて、おまけに生まれたプラナラ幼生

がちゃんとポリプになることもわかりました。当然、海の中でもどこかにポリプがついているだろうと思います。けれども、慶良間ではそんなに多くのミズクラゲがないのはなぜか、慶良間ではふえないのか、せっかくポリプもできたので、これからしばらくそれを育てながら、考えてみようと思います。その様子については、またいずれアムスルだよりでお話しましょう。もし、実物のミズクラゲのポリプを見たい人がいたら、研究所に来てください。顕微鏡でごらんにいれます。

● 阿嘉島の海より

平成26年3月5日、31番目の国立公園として、「慶良間諸島国立公園」(座間味村、渡嘉敷村)が誕生しました。新規の国立公園指定は、1987年の釧路湿原国立公園以来、27年ぶりとなります。慶良間諸島の島々と透明度の高い海が一体となった美しい景観が認められたということです。

そして、3月9日に阿嘉島で行われたモニユメントの除幕式では、石原伸晃環境大臣、宮里悟座間味村長のほか、阿嘉校と慶留間校の生徒らによって新しく設置されたモニユメントのお披露目が行われました。

